



こども食堂の現状 & 困りごとアンケート

vol.8

結果報告

回答期間 : 2023年6月7日(水)～2023年6月21日(水)

回答対象 : 各地の「こども食堂の地域ネットワーク」および
「こども食堂ネットワーク」とつながるこども食堂

回答数 : 47都道府県 742件

実施 : 認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ

第 1 部

こども食堂の現状&困りごとアンケート vol.8

- ・ こども食堂開始年
 - ・ こども食堂の運営母体
 - ・ アンケート回答時点のこども食堂の開催状況、開催していない理由
 - ・ 会食形式のこども食堂の再開時期
 - ・ コロナ5類感染症変更前後における変化
 - ・ 活動に関する困りごと
-

第 2 部

物価上昇によるこども食堂への影響

- ・ 物価上昇による変化
 - ・ 支援の状況
 - ・ 物価上昇による困りごと（自由記述）
-

第 3 部

活動に関する困りごと(自由記述)

過去の「こども食堂の現状&困りごとアンケート」調査結果は、以下にまとめています。

第1回 2020年4月13日～17日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/04/musubie_Q_sheet_0423.pdf

第2回 2020年6月19日～25日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/07/musubie_Q2_sheet_0713.pdf

第3回 2020年9月20日～28日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2020/10/musubie_Q3_sheet_1020_02.pdf

第4回 2021年2月1日～10日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2021/03/musubie_Q4_sheet_fix0312.pdf

第5回 2021年6月23日～7月4日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2021/07/musubie_Q5_sheet_0716.pdf

第6回 2022年6月2日～16日実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2022/07/musubie_Q6_sheet_0701.pdf

第7回 2022年10月26日～11月9日 実施

https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2022/12/musubie_Qvo7F_14.pdf

※過去に実施した全国子ども食堂実態調査とは調査方法及び回答数が異なっているため、比較分析の対象外としております。

第1回全国子ども食堂実態調査 2021年10月15日から12月15日

<https://musubie.org/wp/wp-content/uploads/2022/03/a7043c68eccf433117d7c6238c32ac0e.pdf>

むすびえ理事長・湯浅よりアンケート結果総括

コロナの5類変更後、初めての調査でした。アンケートにご協力いただいたこども食堂のみなさま、告知にご協力いただいた地域ネットワーク団体のみなさまに深く感謝します。

今回、私たちの最大の関心事は、コロナ禍が始まった2020年4月の第1回アンケートでは約1割まで落ち込んでしまった「会食形式でのこども食堂」がどこまで戻ってきているか、でしたが、結果は7割を超えるところまで「復活」していました。コロナ禍は完全に収まったわけではありませんが、こどもたちがつながりを感じられる時間と空間を取り戻しつつあることを、まずは喜ぶと思います。

しかし、以下のように気になるコメントもありました。「子どもたちにとってのこの3年ほどは、取り戻せないショックで、特にその期間に卒業入学を迎えた子どもたちは、今も抜け出せないトラウマのようなものを持っているように思います」。こどもの居場所づくり、およびその環境整備は、単にコロナ禍前に戻す以上の「V字回復」が必要でしょう。

同時に私たちは、会食形式だけを顕揚するのではなく、弁当・食材配布を続けたいという方たちの意向、続けざるを得ない方たちの事情も等しく尊重します。その活動を通じて本当に支援を必要としている人とつながれたという実感や手応えは重要なものだし、止めてほしくないという利用者の方たちの声を無下にできないやさしさは、こども食堂を普及させた原動力であって、否定されるべきものではありません。私たちはみなさんと一緒に悩み考え、みなさんが納得感をもってそれぞれの道に進むことを、すべて応援します。

そして最後に、こども食堂を「貧困」と強く結びつけることへの懸念の声は、相変わらず多く寄せられました。それは地域みんなの居場所になるための〈つながりづくり〉を行なっている多くのこども食堂の実態と異なるだけでなく、本当に困っている人をこども食堂から遠ざけることにもなります。メディアや行政の方は、こども食堂に「貧困対策という枕詞」をつけようとするとき、次のコメントを思い出してください。

「貧困とこども食堂を結びつけることによって支援が集まりやすいという側面はあると思いますが、それによって食堂に来にくくなる子もいて、結果的に子どもの利益にならないこともあります」「『貧困支援』を出してしまうと利用しにくい、自らが貧困者だと思いたくない、子どもがいじめにあう等、ネガティブなことが多く聞こえてきます。すると本当に支援をしたい方に益々届けにくくなるという負のサイクルに入ってしまう」

こども食堂の多くは、みんなの中に困っている誰かをさりげなく包み込んでいます。その智慧もまたこども食堂の強みであり、社会の財産だと私たちは受け止めています。



むすびえ理事長
湯浅 誠

第 1 部

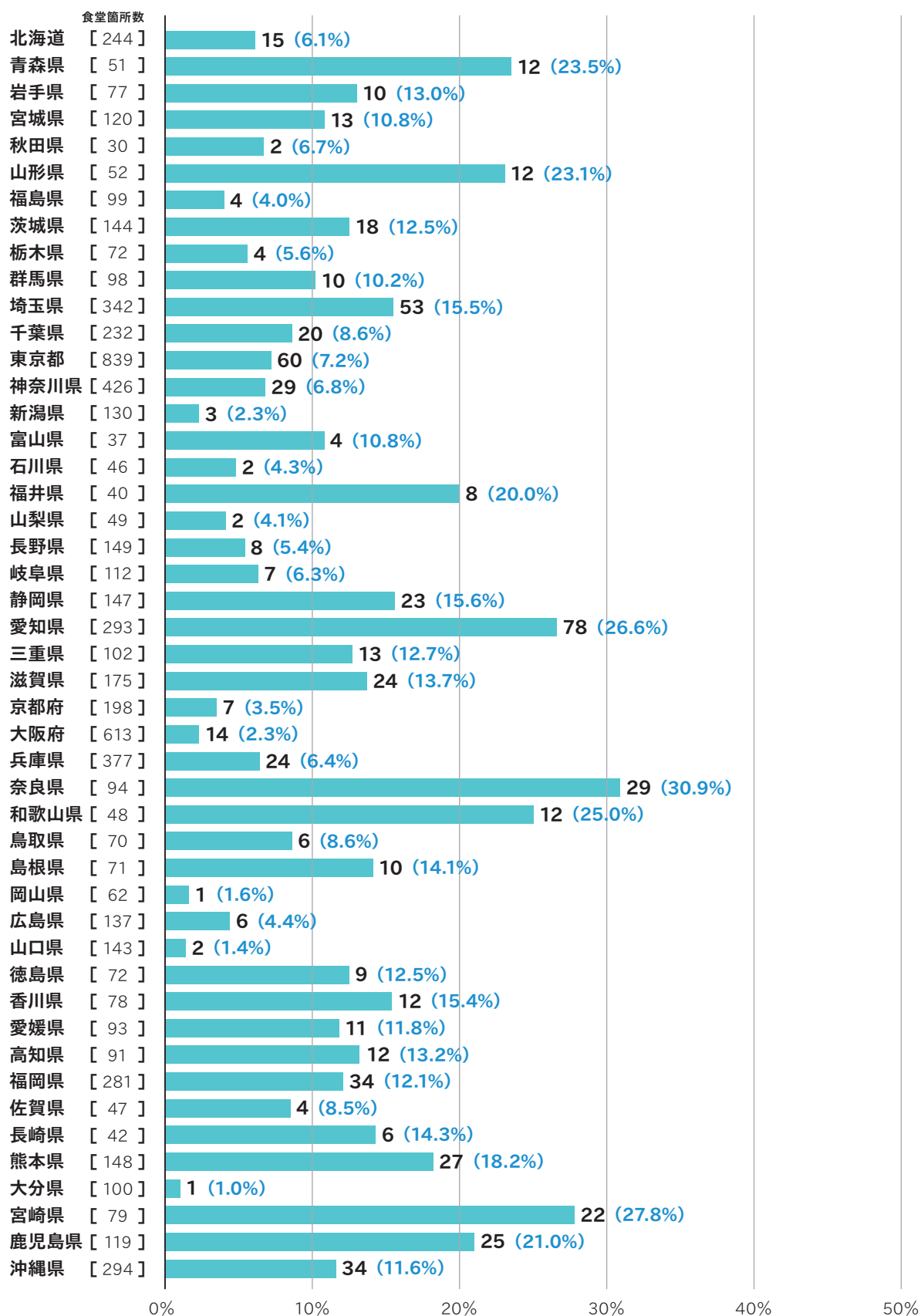
.....

こども食堂の現状 &
困りごとアンケート

vol.8

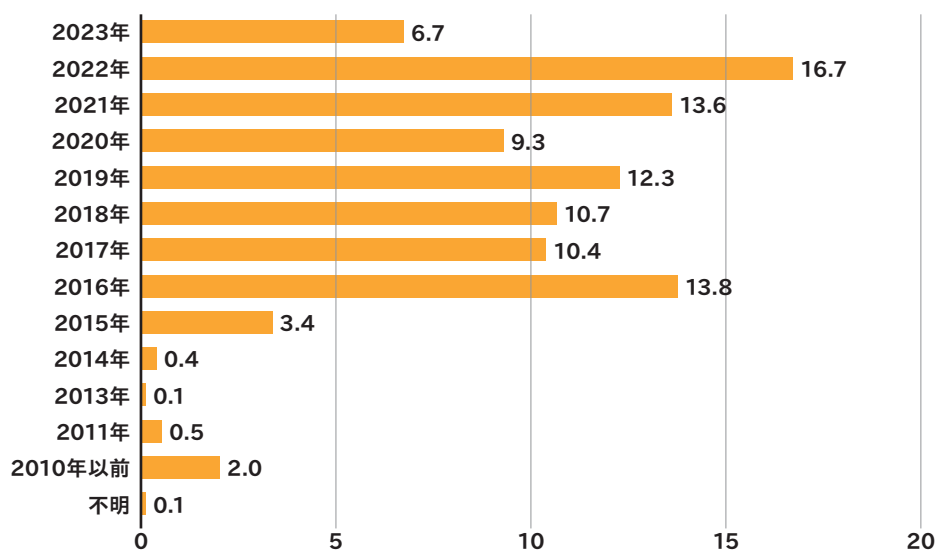
都道府県別の回答したこども食堂の数及び回答率

単位：件 回答数=742



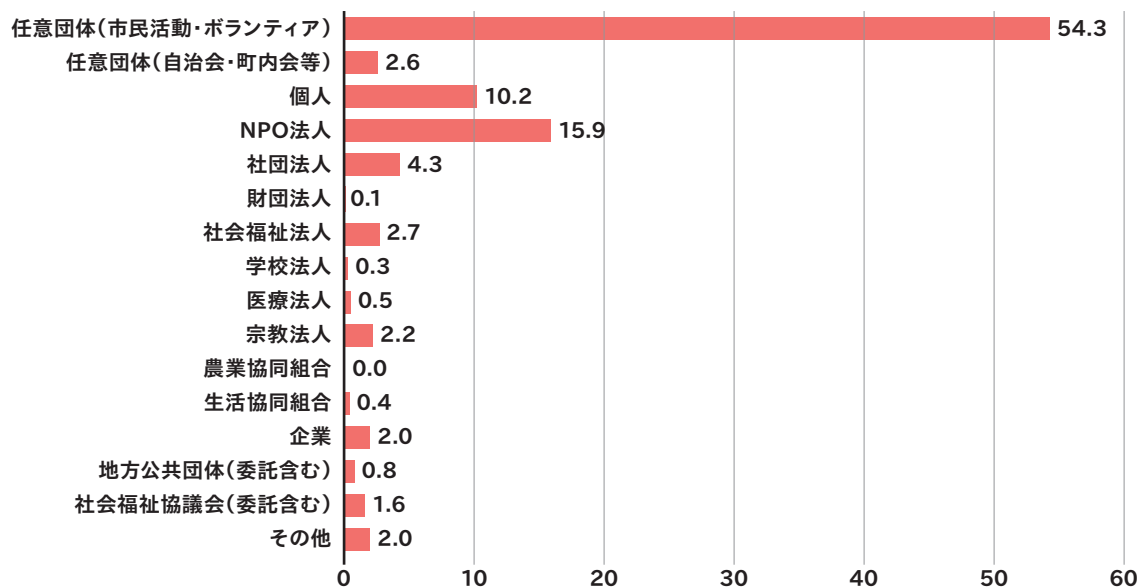
1 開始した年について

回答数：724件 単位：%



2 運営主体について

回答数：724件 単位：%



その他：労働者協同組合、株式会社、合同会社、NPO法人申請を準備、一般社団法人、自主団体、地域自主組織など

アンケートからわかること

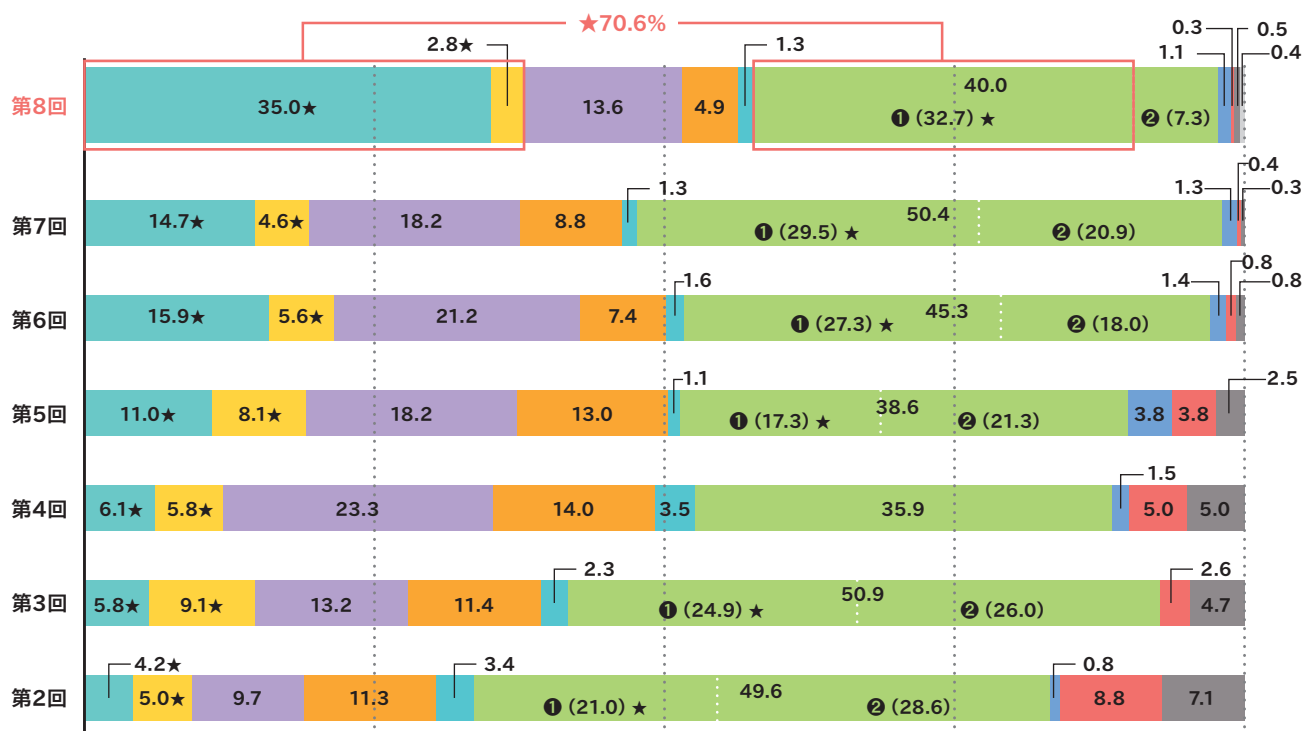
- ・ 今回の回答者においては、過去5年2019～2023年に開始した団体が58.6%と全体の半数以上となっている。2020年のコロナ禍以降に開設した団体は全体の46.4%であった。
- ・ 運営団体については任意団体(市民活動・ボランティア)が54.3%と最も多く、次いでNPO法人の15.9%、個人10.2%と上位3項目で80.4%と、8割を超える水準となった。

3 こども食堂開催状況

回答数：724件 単位：％

参考：第2回アンケート結果 2020年6月時点、238件（※再集計）
 参考：第3回アンケート結果 2020年9月時点、342件（※再集計）
 参考：第4回アンケート結果 2021年2月時点、343件

参考：第5回アンケート結果 2021年6-7月時点、446件
 参考：第6回アンケート結果 2022年6月時点、623件
 参考：第7回アンケート結果 2022年11月時点、681件



- 会食形式のこども食堂（これまで通りみんなで一緒に食べる）
 - 会食形式のこども食堂（これまでと異なり人数制限、屋外開催などをする）
 - お弁当の配布（取りに来てもらう）
 - 食材等の配布（取りに来てもらう＝パントリー）
 - 食材やお弁当等を宅配（自宅へお届け）
 - 複数活動（①こども食堂+食材配布、②お弁当配布+食材配布など）
 - その他の活動を実施
 - 活動の休止・延期（再開予定時期あり）
 - 活動の休止・延期（再開予定はたっていない）
 - その他
- ★：会食形式のこども食堂を実施

アンケートからわかること

・会食形式のこども食堂を開催している割合が70.6%（★印の項目：会食形式のこども食堂「これまで通りみんなで一緒に食べる」35.0%、会食形式のこども食堂「これまでと異なり人数制限、屋外開催などをする」2.8%、複数活動「会食形式のこども食堂を含む」32.8%の合計）。前回のこども食堂を開催している割合48.8%から、21.8pt増加する結果となった。

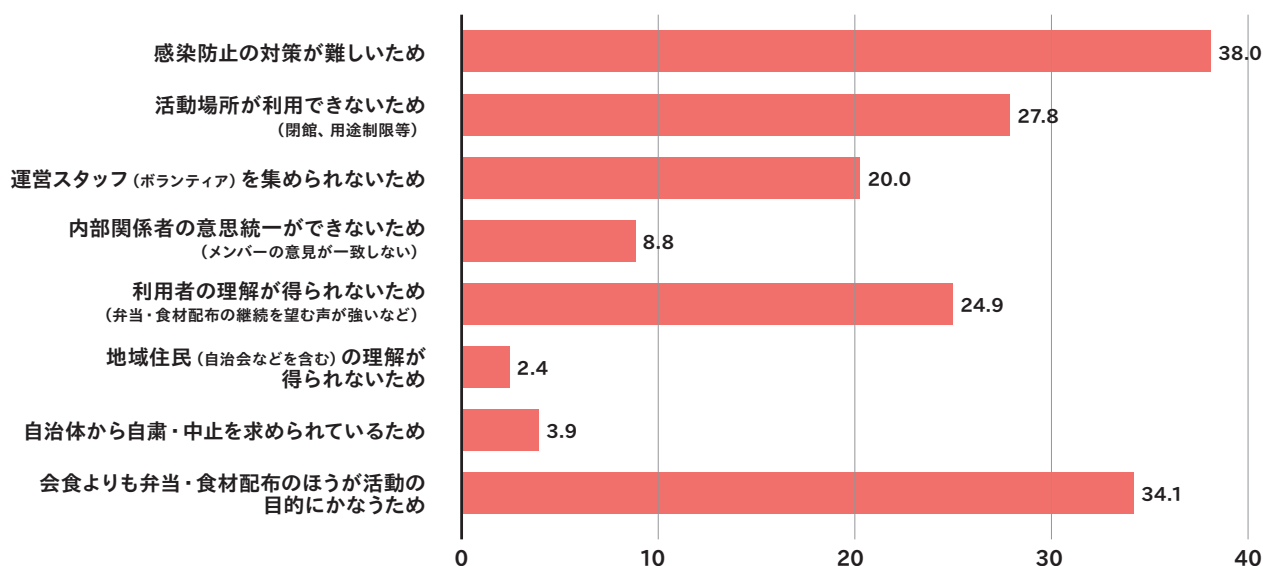
・一方、会食せず弁当・食材配布など、いわゆるフードパントリー活動をしているこども食堂の割合が27.1%と前回の49.2%から22.1pt減少する結果となった。

（注記）

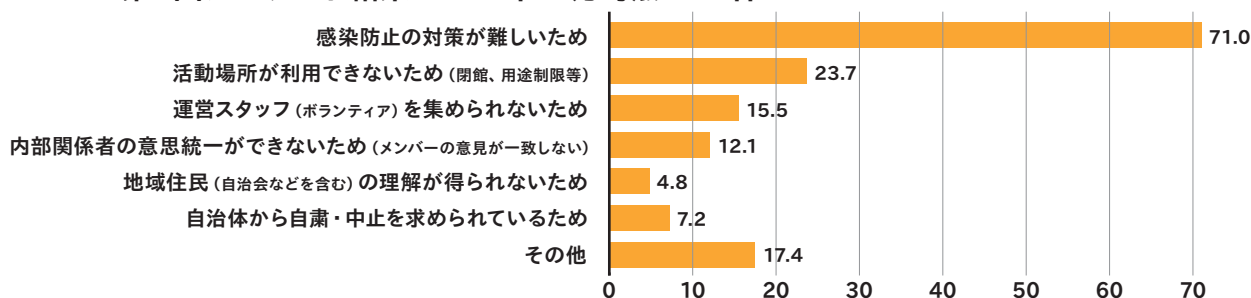
- 第5回アンケート以降、これまで「複数活動（こども食堂+食材配布、お弁当配布+食材配布）」とひとまとめに聞いていた質問項目を会食形式のこども食堂を含むものと含まないものに層別して聴取している。
- なお、「複数活動（会食形式のこども食堂を含む）」の内訳については、①月2回実施のうち、1回を会食形式のこども食堂で開催、1回を弁当・食材配布形式で開催というように定例化しているものと、②地域の感染状況に応じて開催形態をその都度柔軟に変更しているもの（開催予定日近くに地域で陽性者が出たら弁当配布に切り替えるなど）がある。

3 -1 会食形式のこども食堂の非開催理由（※複数回答）

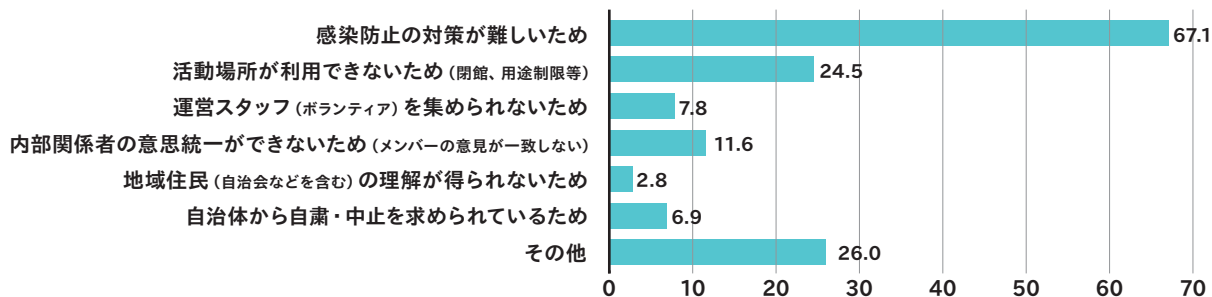
回答数：205件 単位：%



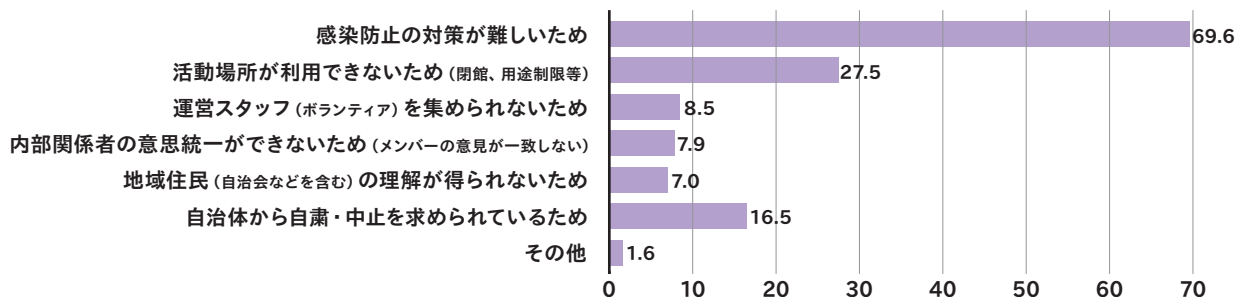
■ (参考) 第7回アンケート結果 2022年11月時点 207件



■ (参考) 第6回アンケート結果 2022年6月時点 319件

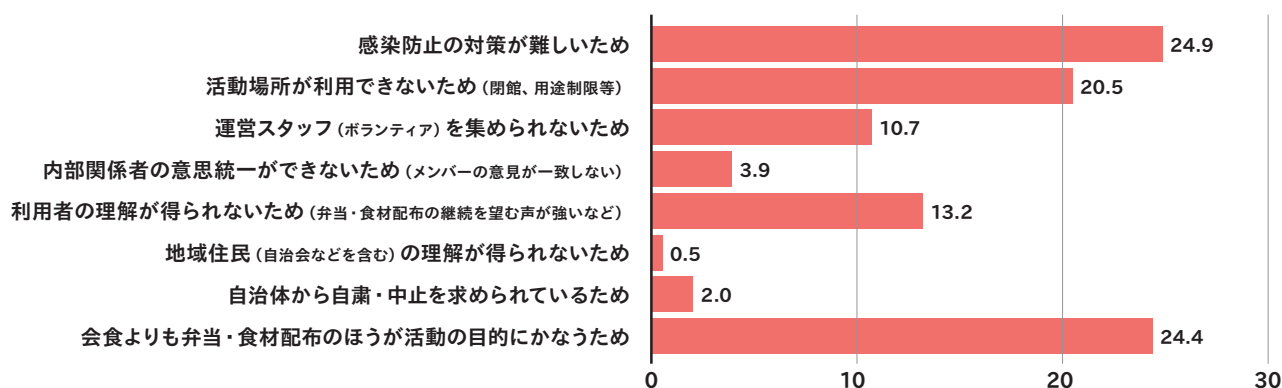


■ (参考) 第5回アンケート結果 2021年6-7月時点 316件

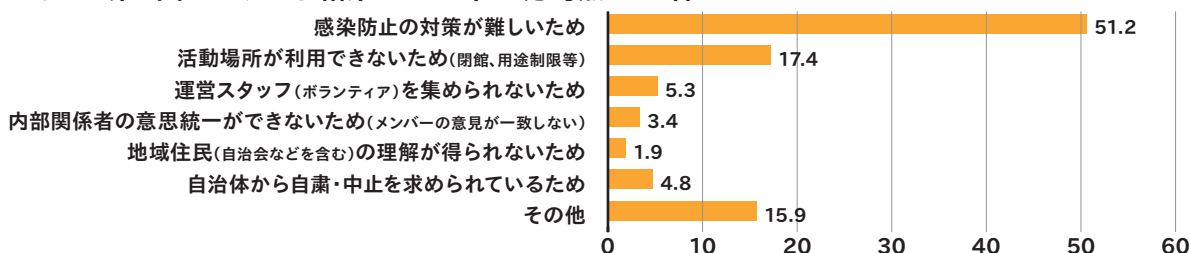


3 -2 こども食堂の非開催理由（最も）

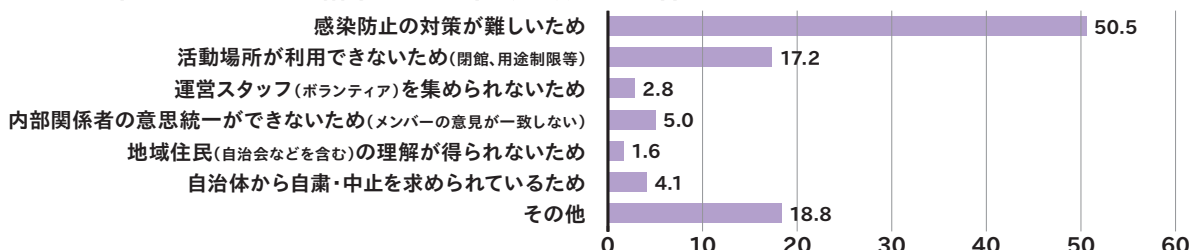
回答数：205件 単位：％



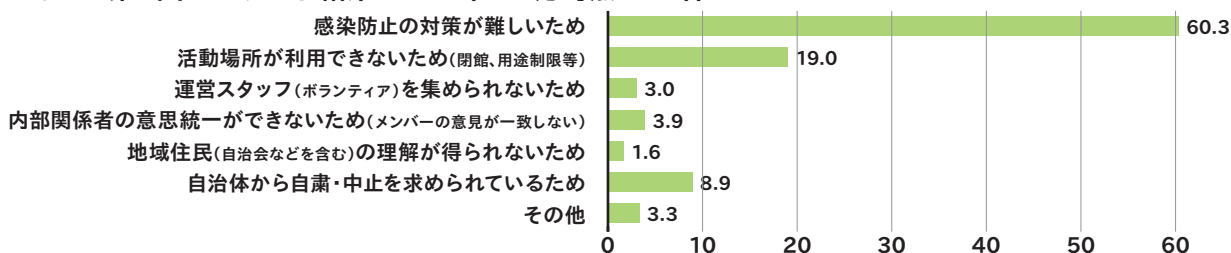
■（参考）第7回アンケート結果 2022年11月時点 207件



■（参考）第6回アンケート結果 2022年6月時点 319件



■（参考）第5回アンケート結果 2021年6-7月時点 316件

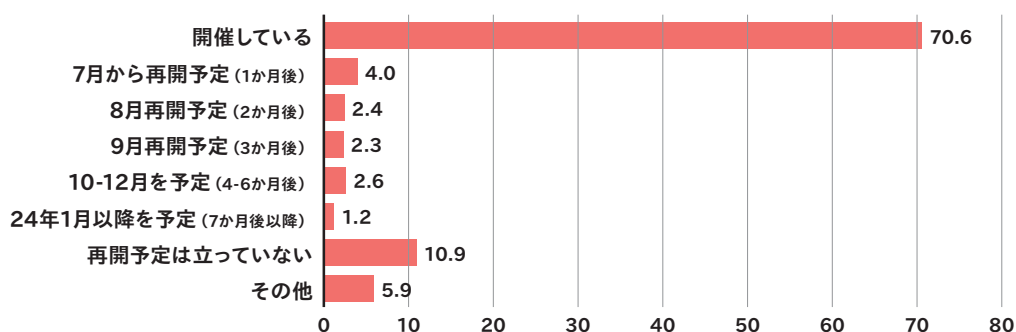


アンケートからわかること

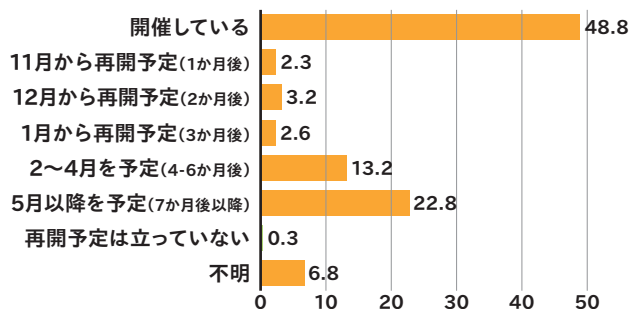
- ・ こども食堂の非開催理由の回答として感染防止の対応が難しいことを理由にする人が38.0%と前回の71.0%からほぼ半分となった。また、次点で会食よりも弁当・食材配布の方が活動の目的にかなうためという理由が34.1%という結果であった。
- ・ 一番の理由としても感染防止対策が難しいという理由は、24.9%と前回の51.2%からほぼ半分の水準で、次点で会食よりも弁当・食材配布の方が活動の目的にかなうためという理由が24.4%という結果となった。

4 会食形式のこども食堂の再開時期

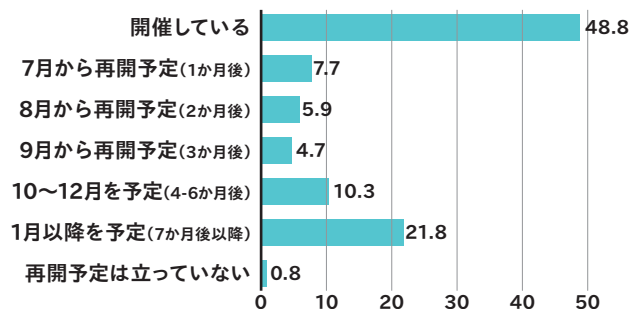
回答数: 742件 単位: %



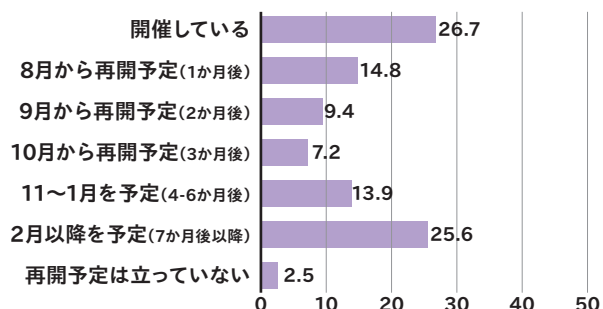
■ (参考) 第7回アンケート結果 2022年11月現在 681件



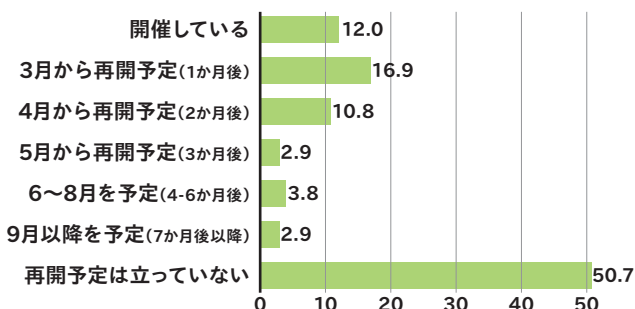
■ (参考) 第6回アンケート結果 2022年6月現在 623件



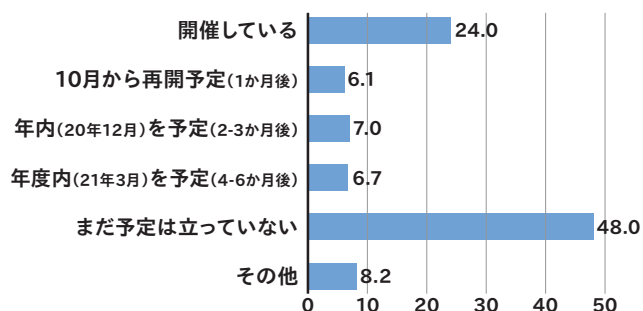
■ (参考) 第5回アンケート結果 2021年6-7月現在 446件



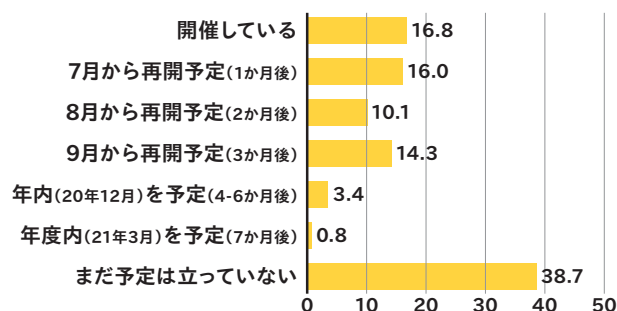
■ (参考) 第4回アンケート結果 2021年2月現在 343件



■ (参考) 第3回アンケート結果 2020年9月現在 342件



■ (参考) 第2回アンケート結果 2020年6月現在 238件

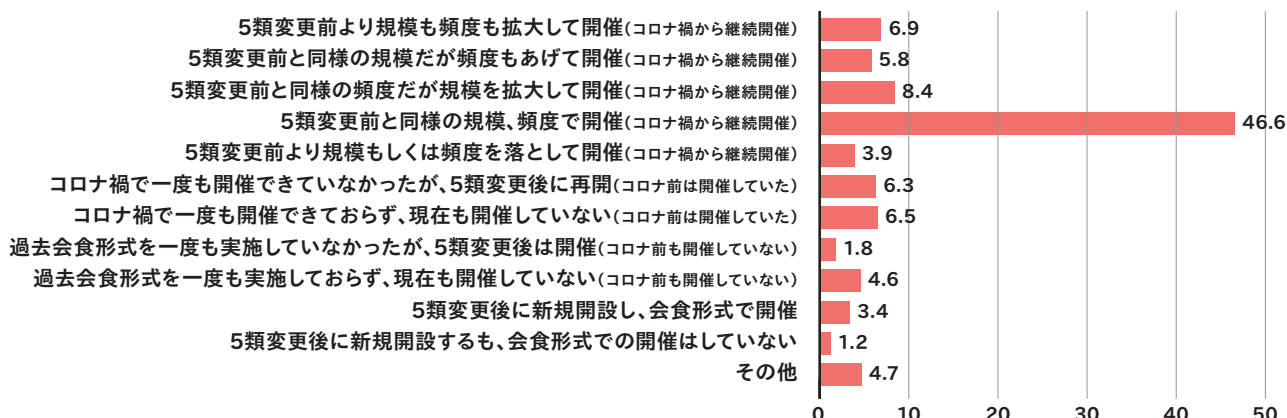


アンケートからわかること

- ・ 現在開催している、1,2か月後に開催を予定している人たちを合わせると、77.0%と8割近く、前回の53.8%から23.2pt増加するという結果となった。

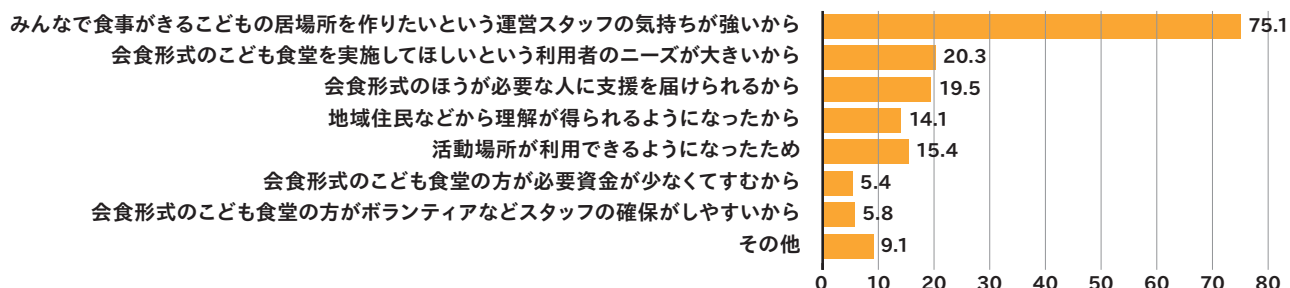
5 -1 コロナの5類感染症への変更前後(5月8日の前後)での会食形式のこども食堂の開催状況

回答数:742件 単位:%



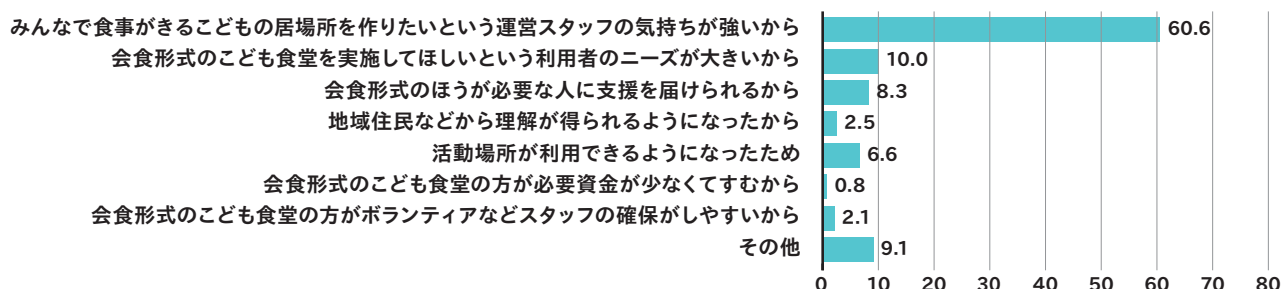
5 -2 5類変更前後の変化の理由

回答数:241件 単位:%



5 -3 5類変更前後の変化の理由(最も)

回答数:241件 単位:%



アンケートからわかること

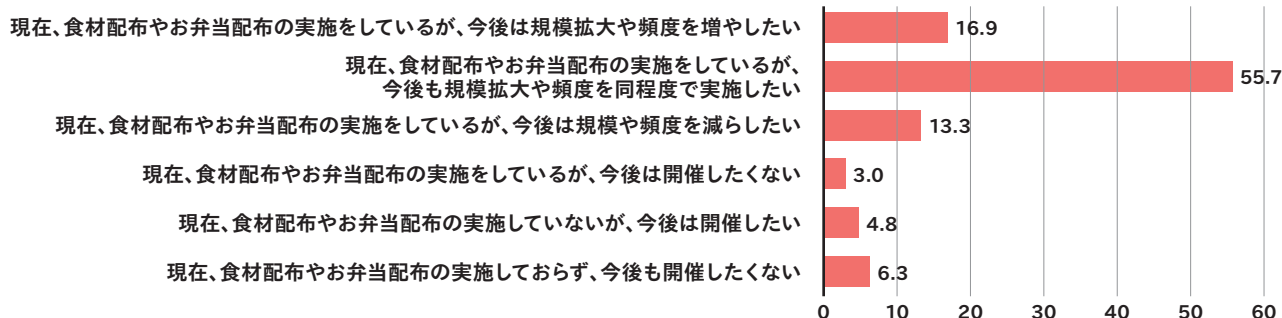
- ・ コロナの5類感染症への変更後も同等の規模・頻度で実施しているこども食堂が46.6%で最多となった。また、5類感染症への変更後に規模もしくは頻度を拡大したいが21.1%という結果であった。
- ・ 変化の理由としては、みんなで食事ができるこどもの居場所を作りたいという運営スタッフの気持ちが強いためからが75.1%と最多で、1番の理由も同様の理由が60.6%と最多となった。

6 5類変更後の会食形式のこども食堂の実施について、 考えていること（自由記述）

- 変わらずに安心できる居場所を継続していきたいと思います。（熊本県）
 - 同じ会食形式でも、5類変更前は教室に座り、黙食だったが、変更後は向き合って、パーテーションもなく、歓談しながら食事をとり、楽しく過ごせた。このまま続けたい。（島根県）
 - コロナ禍で会食ができなくなった時期から参加者になった方々は食材配布やお弁当をもらう体験だけなので、コロナ禍前の子どもにとっても大人にとっても居場所として食を通して語り合ったり楽しんだりする体験をしていないため、「一緒に食べる」に戻していくことに苦労しています。（山形県）
 - 会食形式で、地域の居場所作りの上ではいい事だと思います。以前は(コロナ前)ワイワイおしゃべりしながら楽しい雰囲気でした。がコロナになってひとり親の声を聴いて、とても経済的に厳しい事、昨今の物価高騰、電力値上げでお弁当&パントリーが生活の支えになっている事を話されると、会食形式とパントリーを実施するにはマンパワー不足と感ずてる。悩む所があり会食形式だけでは、進めないでいる。（宮城県）
 - 食堂から関わりができた子どもたちへの発展した関わり（イベントや日常の交流）を持てるような活動ができればと思います。（福岡県）
 - 徐々に会食形式へと移行していき、子どもたちや地域の方々のふれあいの場となるように啓発活動を行いたいと考えております。（鹿児島県）
 - 今月6月開催からテイクアウトのみならず会場内に飲食スペースと言う形で食べて頂くスタイルを取りました。食べて行かれる方も、複数組みありました。コロナ禍から始めたので、今後は他のこども食堂さんのスタイルも参考にして継続していきたいです。（三重県）
 - 7月に港区社会福祉協議会主催でコロナ5類の中での区内子ども食堂実践交流会がある。保健所も参加されるので、今後の対応を相談したいと思っている。行政にこういう場を設けて頂けている事が非常にありがたい。（愛知県）
 - お弁当の配布に切り替えてから、人数が倍増してしまい、会食形式だと子ども食堂の開催場所に入りきらないという課題があります。（東京都）
 - コロナ以前よりは衛生管理や感染予防の意識が高い状態にあると思う。（岐阜県）
 - 感染や、衛生上の理由で、子供たちとの触れ合いが、あまりできなかったと思うので、子供大人参加型の運営も企画していきたい、と思ってます。（宮崎県）
 - 屋外テントを張り、その場で食事(カレーライス)を食べて貰っている他、テイクアウトも併用している。（滋賀県）
 - 5類変更までは会食形式では広い食堂を開放していただいたの開催のみでしたが、今後は以前開催していた狭いが自宅での開催も再開したいと考えています。以前のような子ども達の賑やかな声をきけるのが楽しみです。（広島県）
-

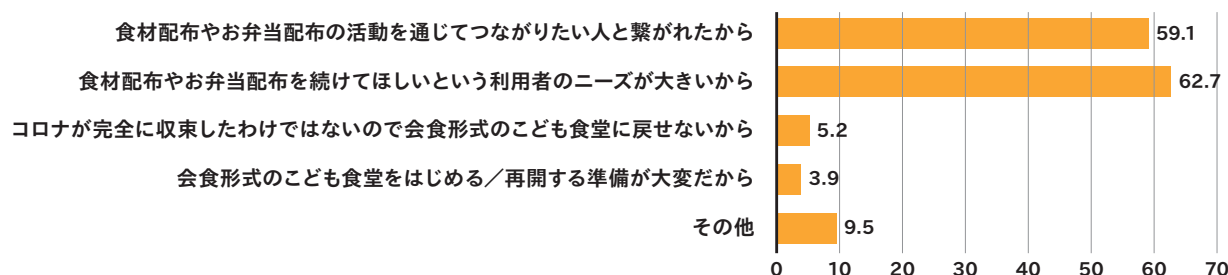
7 -1 今後、感染状況がさらに落ち着いた場合の 食材配布やお弁当配布の実施意向

回答数：664件 単位：％



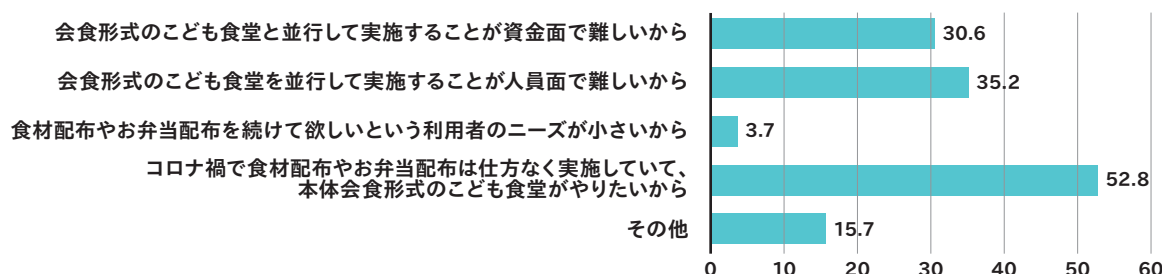
7 -2 食材配布実施に積極的な理由

回答数：482件 単位：％



7 -3 食材配布実施に消極的な理由

回答数：108件 単位：％



アンケートからわかること

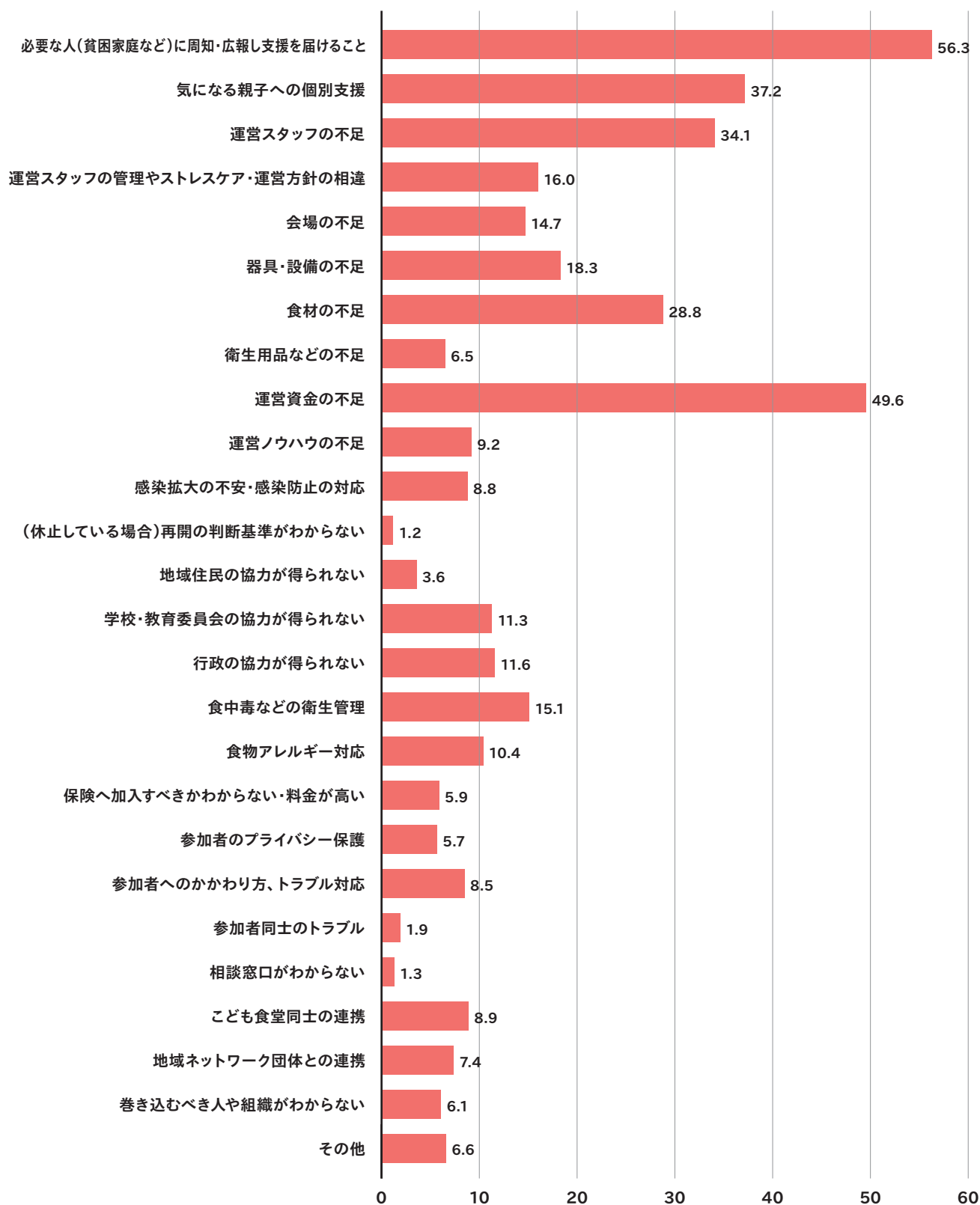
- ・ 今後、感染状況がさらに落ち着いた場合で食材配布の実施意向は90.7%とほとんどで、同規模以上の継続実施が72.6%と高水準となった。
- ・ 食材配布実施に積極的な理由としては、食材配布やお弁当配布を続けてほしいという利用者のニーズが大きいという理由が最多で62.7%、次いで食材配布やお弁当配布の活動を通じて繋がりたい人と繋がれたからという理由が59.1%と半数以上の結果となった。
- ・ 一方で食材配布実施に消極的な理由としては、コロナ禍で食材配布やお弁当配布は仕方なく実施していて、本来会食形式のこども食堂がやりたいからという理由が52.8%と半数以上の結果となった。

8 食材配布やお弁当配布の実施について、考えていること（自由記述）

- 配布には配布の役割や意義があり、会食には会食の意義があると思います。どちらが良い悪いを比較する人が居ますが、無意味だと思います。そのあたりを啓蒙できればと思います。（福島県）
- ボランティアさんからお弁当づくりをする時間を「月に一度の楽しみ!」と何人もの方に言っていただき、大変だしお金もかかるけど大切な時間だと思い、出来るところまで継続する予定です。（岡山県）
- 食材配布はこども食堂の代わりに始まった事業。食堂再開後も必要としている実態があり継続しているが、両方行うことで負担が大きい。（群馬県）
- 利用家庭は増え続けています。会場の規模に制限があり、受け入れを断っています。（岐阜県）
- 当団体では、「ただ、配布して帰ってもらう」ではなく、利用者さん全員と話します。ボランティアスタッフも含めて運営側全員が利用者さんと子どもの見守りを兼ねて食材配布をすることを意識しています。全体の流れは悪くなるのですが、毎回話すのを楽しみに来ておられる方がたくさんおられます。（京都府）
- 元気になる言葉を添えポストカードも配付したい。（熊本県）
- 親の仕事、子供の塾や習い事で、開催時間に来られない家族がいるので、お弁当の注文がある。（東京都）
- 食材やお弁当を頼りにしている家庭があるため急に辞めることはできないと思ってはいるが、本来の居場所づくりに戻していく加減がむずかしい。（山形県）
- 共食の意味、食材配布等の意味をしっかりと考え、当活動の主旨に合うよう考えたい。（青森県）
- 本当なら、夏休みこどもランチ会も公民館でみんなでいただきたいところですが、電気料金高騰しており昨年の光熱費アップで先が読めず、やむなく持ち帰りにするところです。（沖縄県）
- 会食恐怖症という病気があるときき、みんなで食べることに慣れてない 食べることができないという人もいるということを理解した上で持ち帰りも残す方向ですすめていきたい。（鹿児島県）
- 3年あまりも継続してきた食材配付をこちらの都合でやめられない。頼りにされていることも見えてきているのでできるかぎり継続していきたい。他の団体が引き受けてくれたらどんなに助かるかと思っています。（愛知県）
- 食材の受け取り、保管、配布にかかる場所、マンパワーが課題。配布物が重たいものも多く、保管場所への積み込み設置、配布場所への積み込みと運びが非常に大変。（北海道）

9 -1 こども食堂での困りごと（※複数回答）

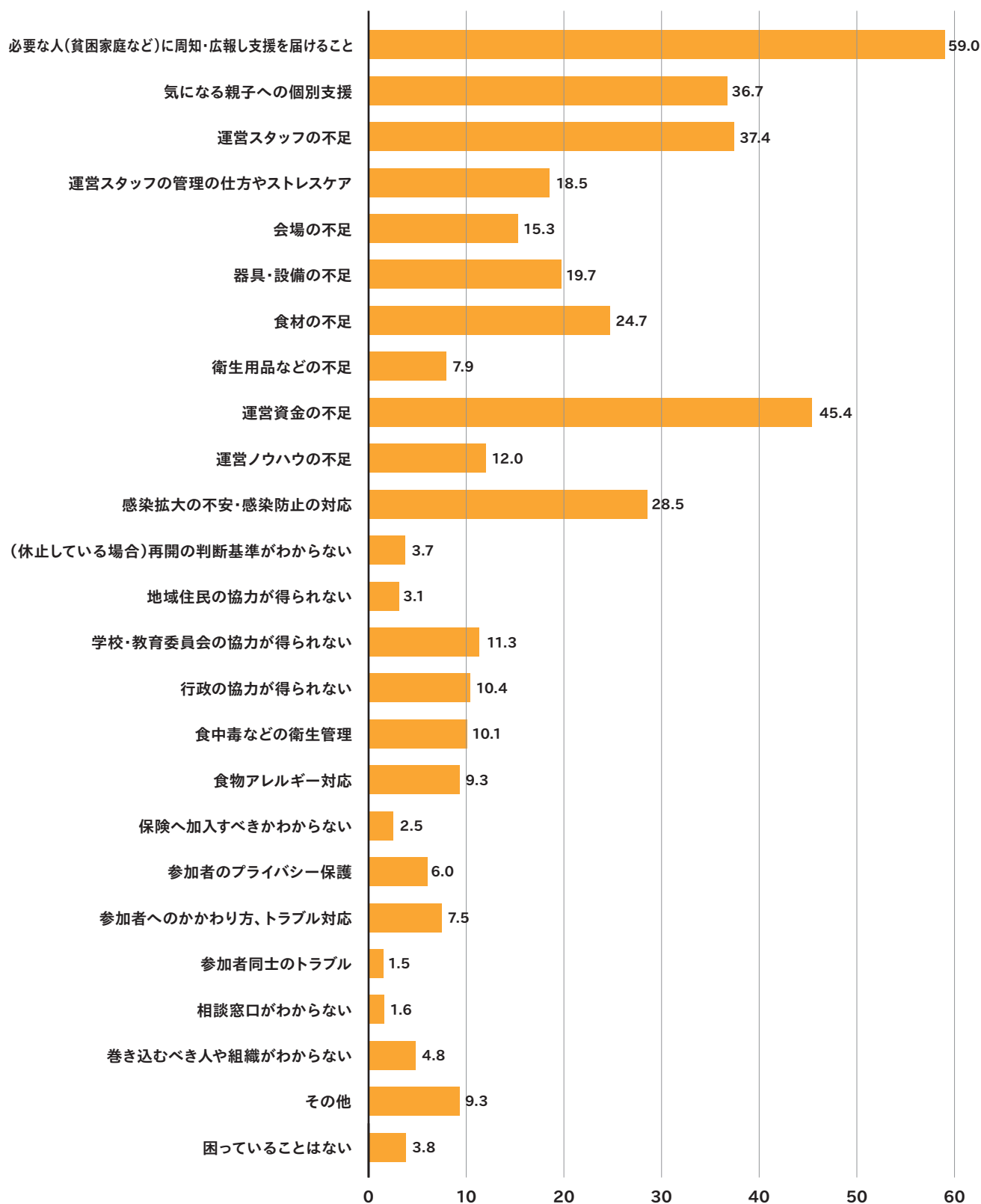
回答数：742件 単位：%



その他：人数制限からはじめるが元の人数にすぐ戻せるのが不安、駐車場の確保、スタッフの高齢化等

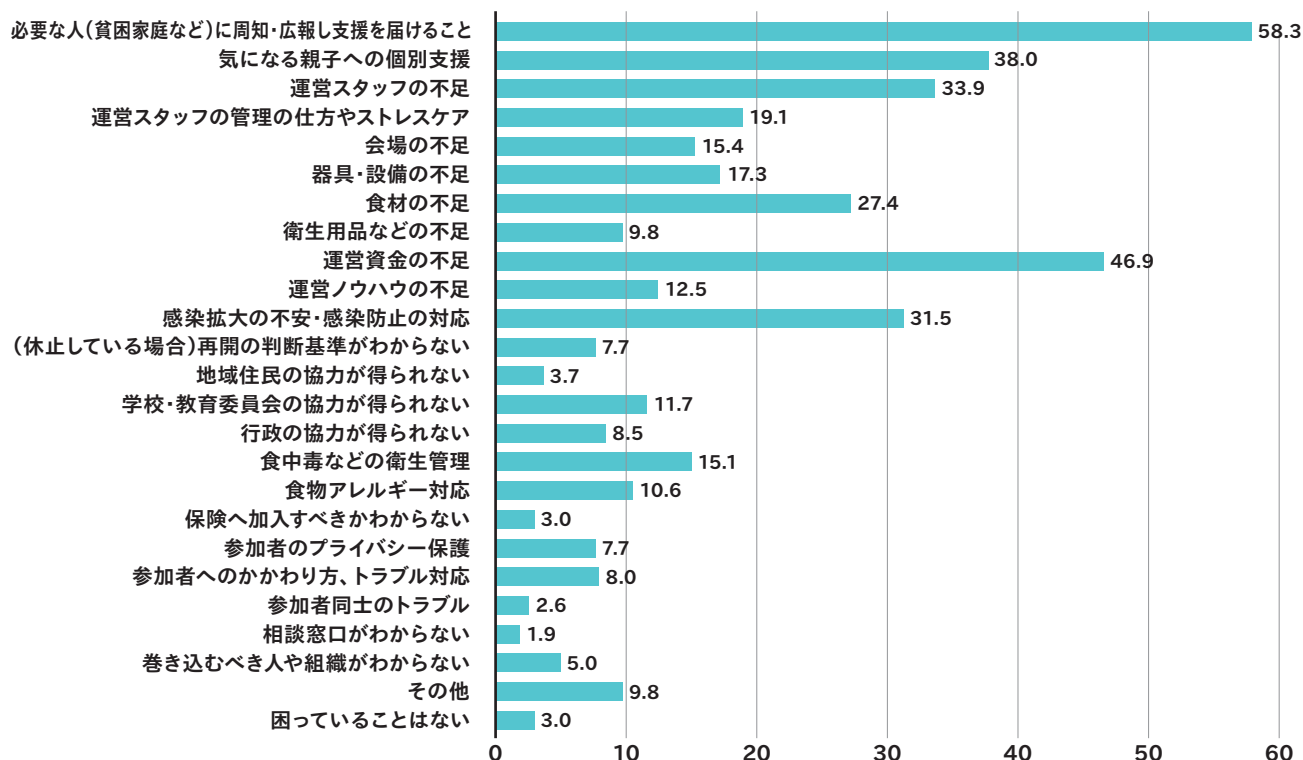
9 -1 こども食堂での困りごと（※複数回答）

■（参考）第7回アンケート 2022年11月時点 回答数：681件（複数回答）

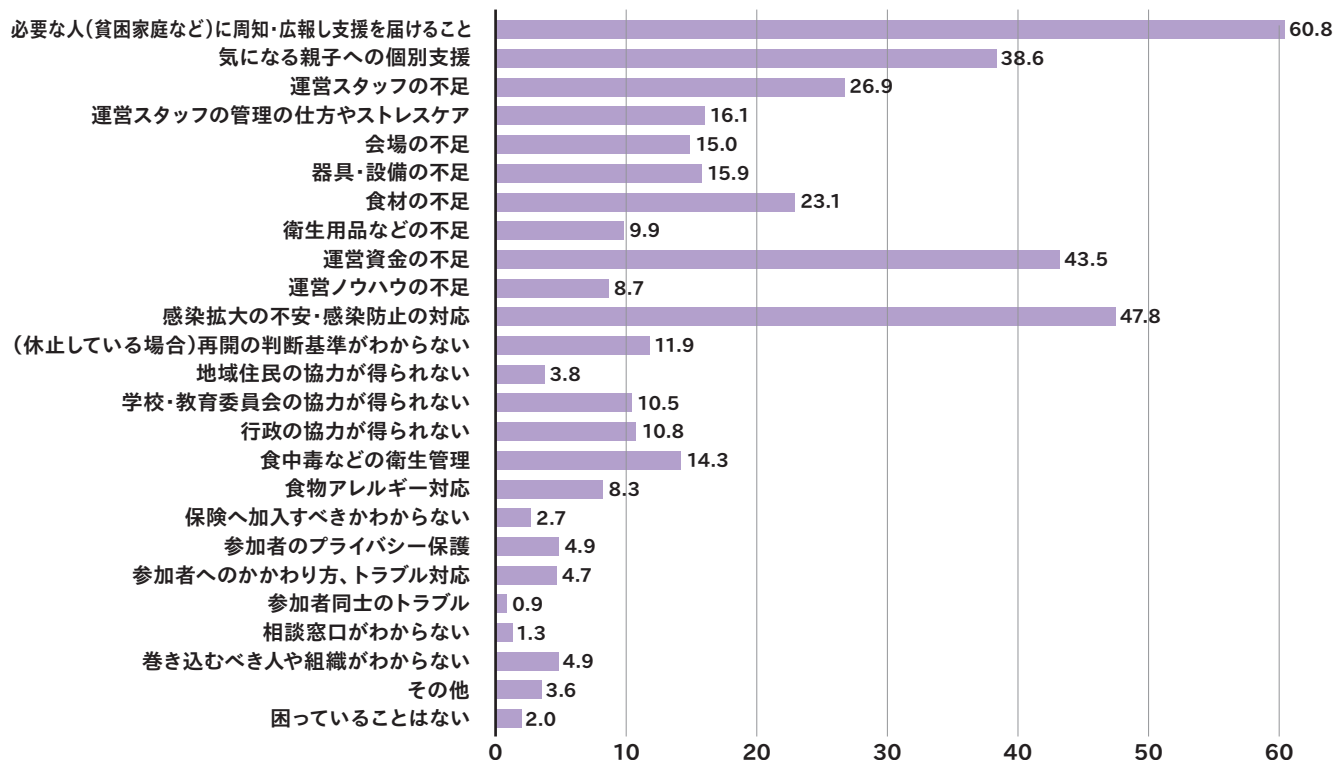


9 -1 こども食堂での困りごと（※複数回答）

■（参考）第6回アンケート 2022年6月時点 回答数：623件（複数回答）

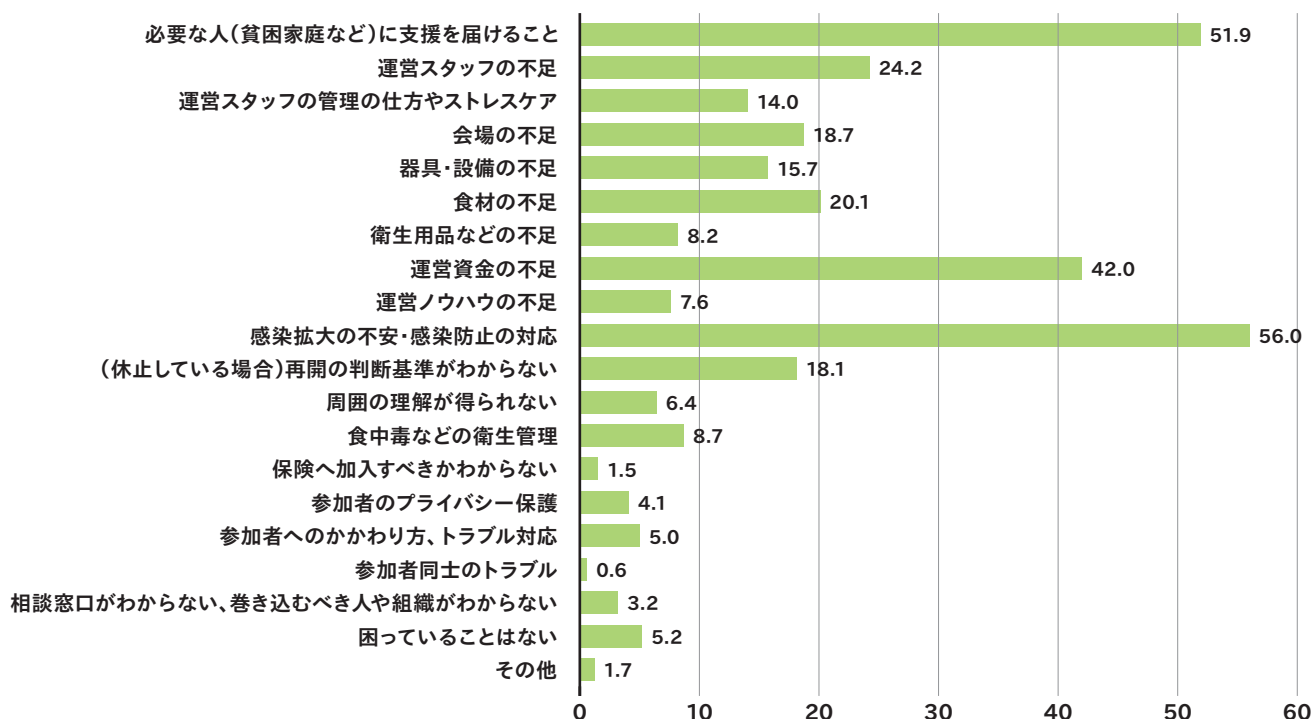


■（参考）第5回アンケート 2021年6-7月時点 回答数：446件（複数回答）

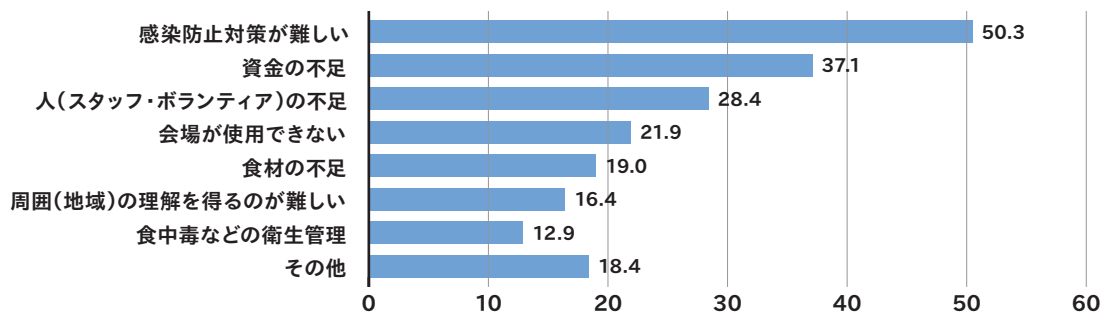


9 -1 こども食堂での困りごと(※複数回答)

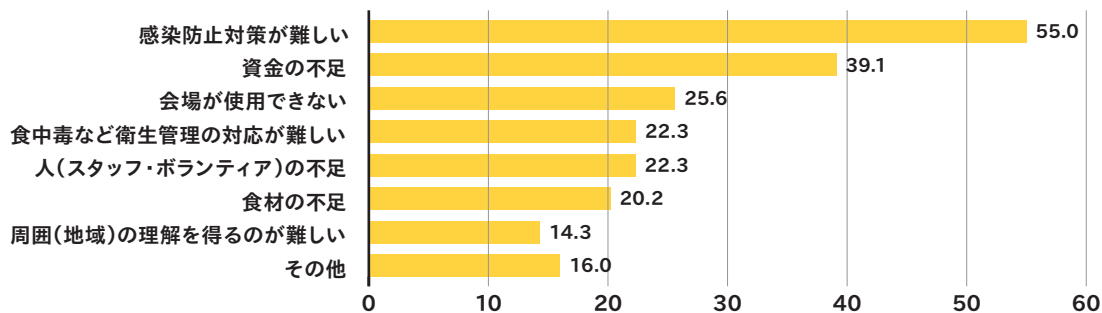
■ (参考) 第4回アンケート 2021年 2月時点 回答数:343件(複数回答)



■ (参考) 第3回アンケート結果 2020年 9月時点 342件(複数回答)

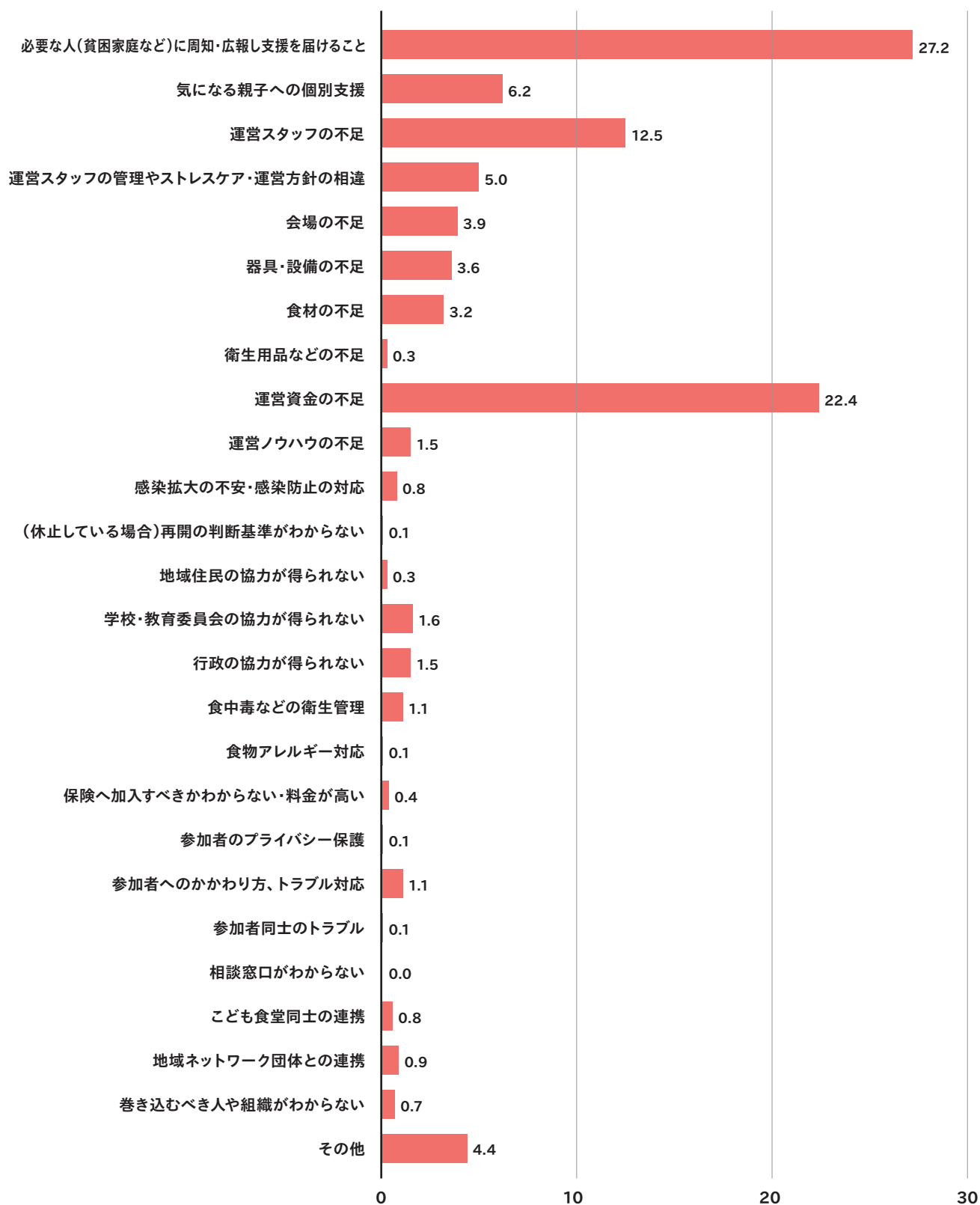


■ (参考) 第2回アンケート結果 2020年6月時点 238件(複数回答)



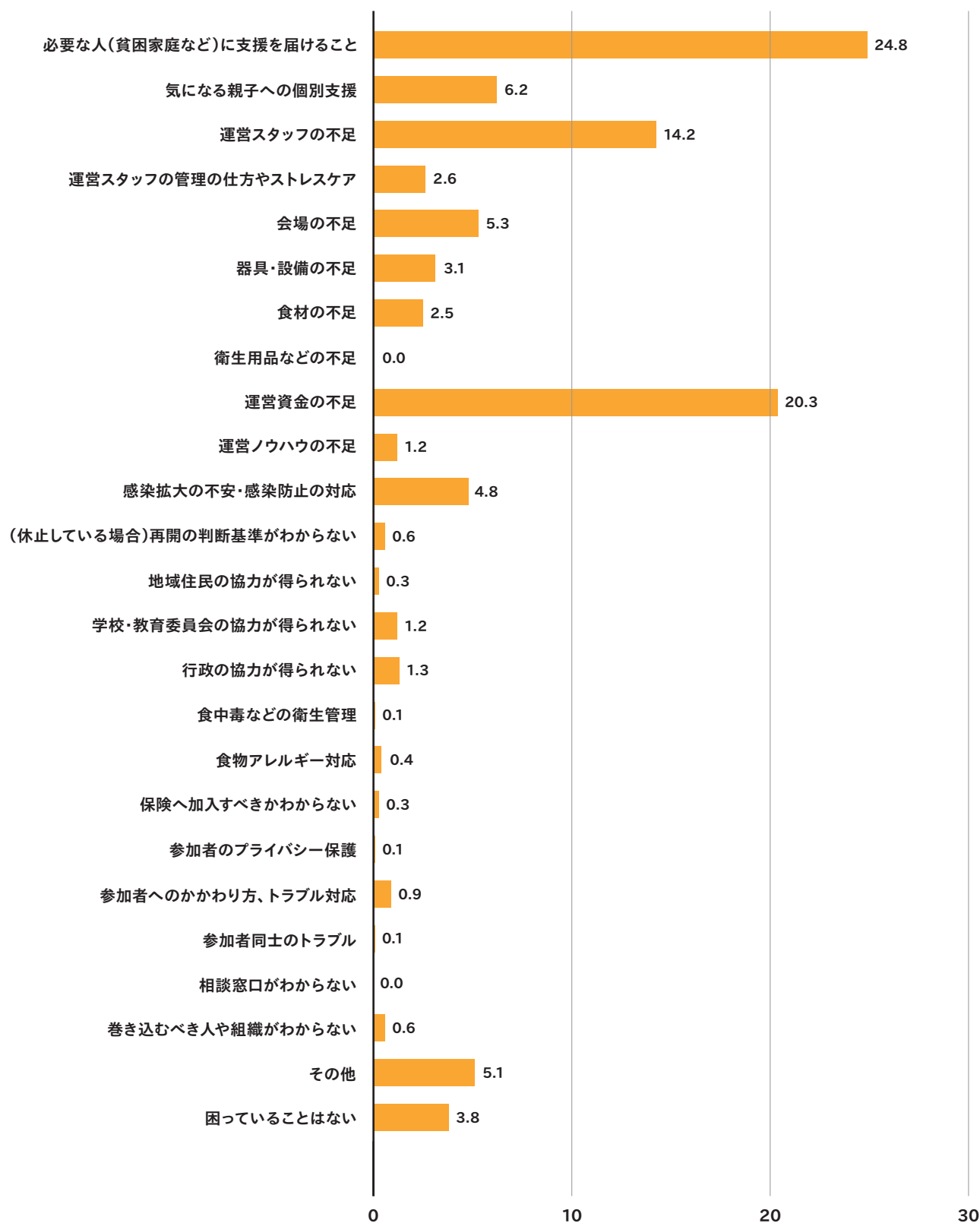
9 -2 こども食堂での困りごと(最も)

回答数:742件 単位:%



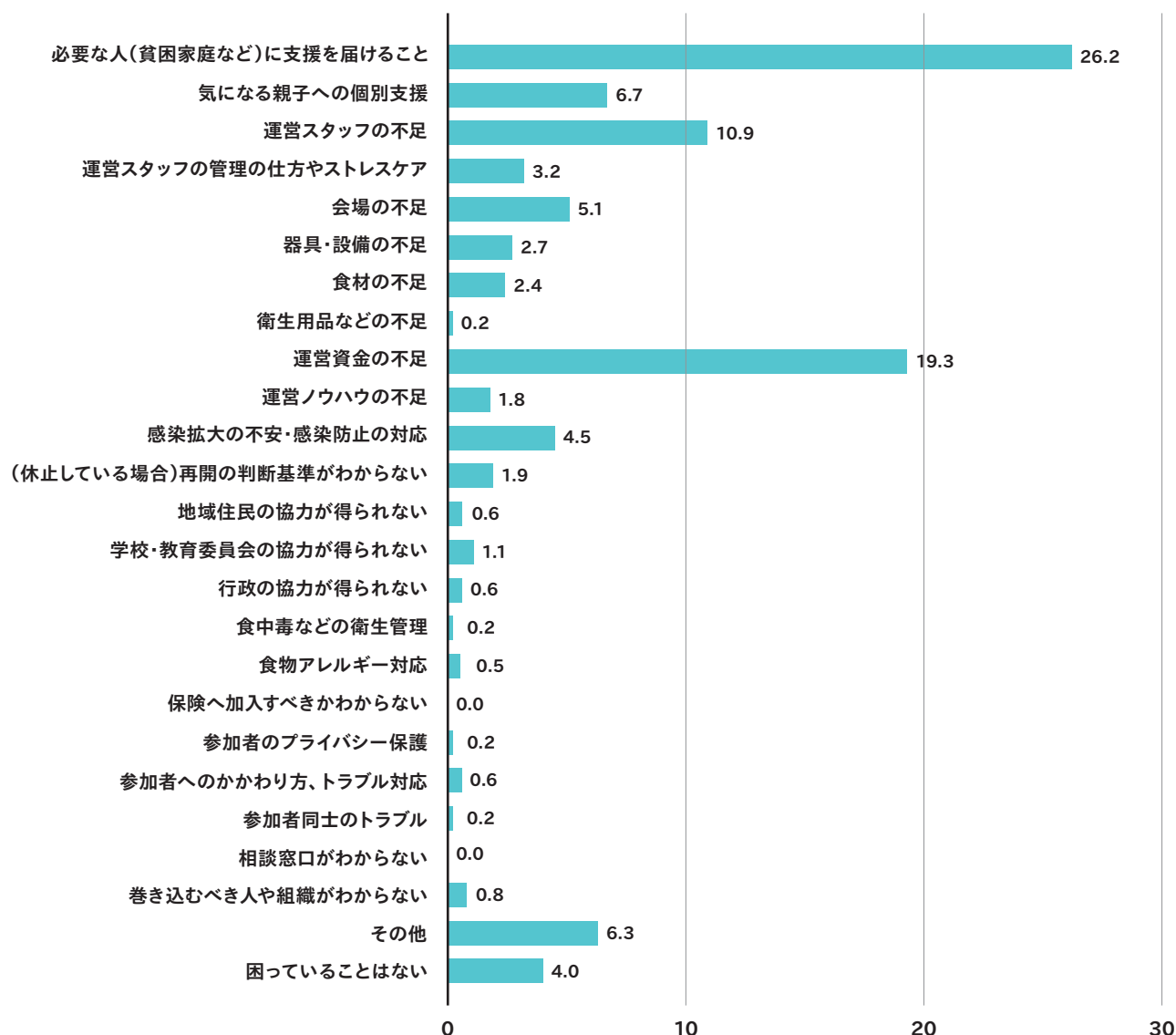
9 -2 こども食堂での困りごと(最も)

■ (参考) 第7回アンケート 2022年11月時点 回答数: 681件



9 -2 こども食堂での困りごと（最も）

■（参考）第6回アンケート 2022年6月時点 回答数：623件



アンケートからわかること

- ・ 必要な人(貧困家庭など)に支援を届けることに困りごとを感じているこども食堂が56.3%と前回の59.0%と若干下回ったもののほぼ同水準で最多となった。次点は運営資金の不足の49.6%で前回の45.4%を若干上回った。
- ・ 最も困っていることの聴取においては、必要な人(貧困家庭など)に支援を届けることが最も多く、27.2%（前回値24.8%）。次いで運営資金の不足22.4%（前回値20.3%）、運営スタッフの不足12.5%（前回値14.2%）という結果となった。順位は前回と同様の結果で割合についてもほぼ同水準の結果となった。

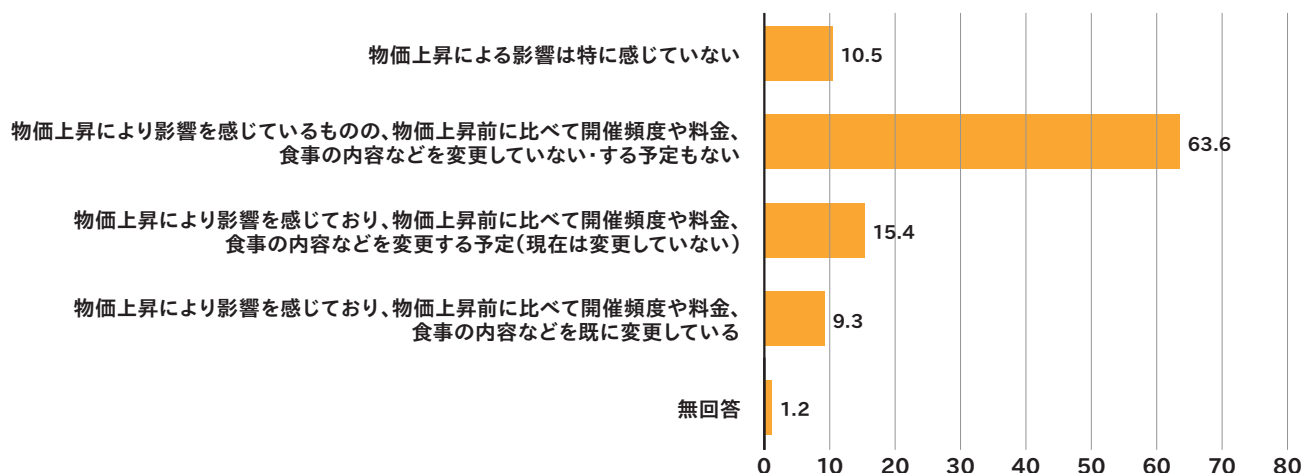
第 2 部

.....

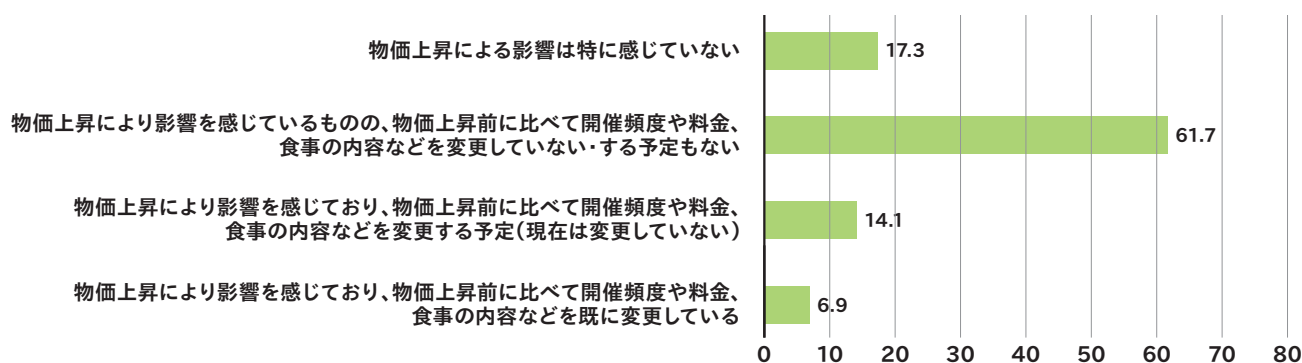
物価上昇による こども食堂への影響

10 こども食堂や食材配布を開催するにあたり、 昨今の物価上昇の影響

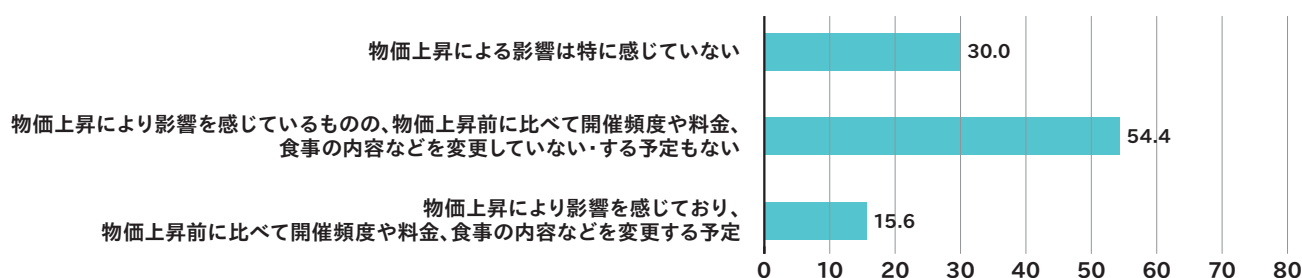
回答数：742件 単位：％



■（参考）第7回アンケート 2022年11月時点 回答数：681件



■（参考）第6回アンケート 2022年6月時点 回答数：623件

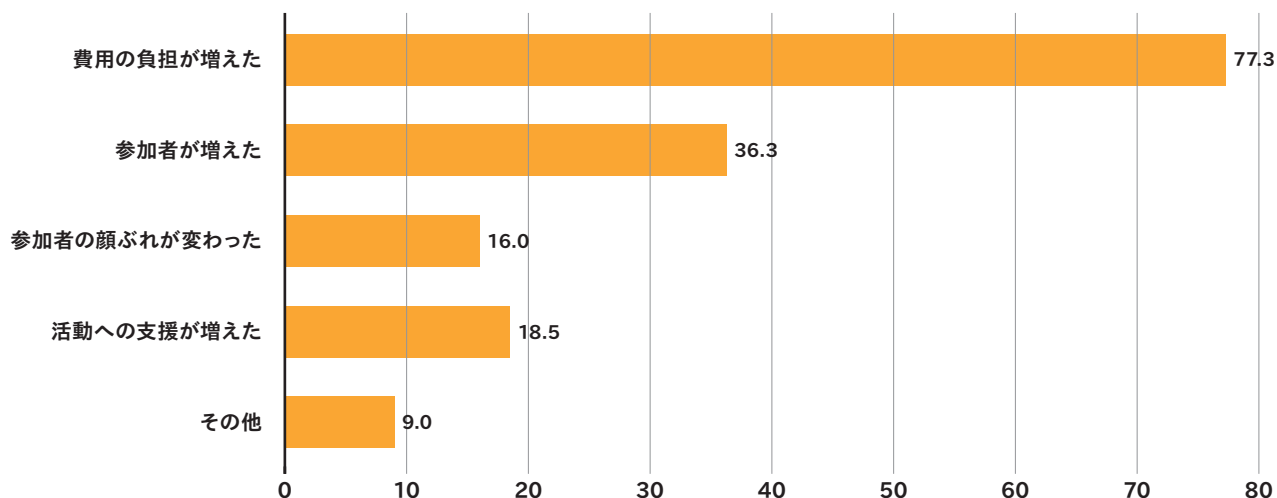


アンケートからわかること

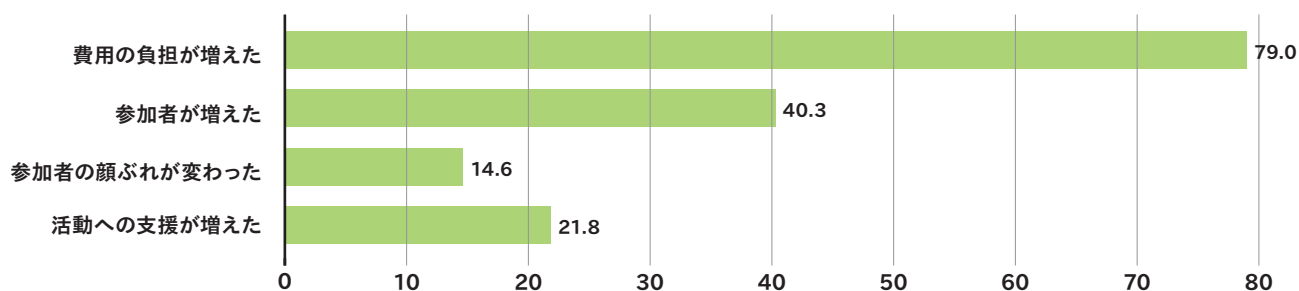
- ・物価上昇による影響を感じているが88.3%と前回の82.7%より5.6pt上昇。その内、物価上昇によってこども食堂を開催するにあたり何等かの変更をしているのが9.3%・する予定と回答しているのが15.4%で合わせると24.7%と前回の21.0%より上昇する結果となった。

11 -1 物価上昇による変化

回答数: 664件 単位: %



■ (参考) 第7回アンケート 2022年11月時点 回答数: 563件



11 -2 1回開催当たりの増額影響

回答数: 513件

a) 1回開催あたりの増額影響

○中央値: 4,000円

b) 1回開催あたり1人分の増額影響

○中央値: 75.0円

■ (参考) 第7回アンケート 2022年11月時点 回答数: 382件

a) 1回開催あたりの増額影響

○中央値: 3,000円

b) 1回開催あたり1人分の増額影響

○中央値: 66.7円

11-3 1回開催当たりの参加者増加数

回答数: 231件

○中央値: 50.0人

■ (参考) 第7回アンケート 2022年11月時点 回答数: 205件

○中央値: 20.0人

(注記) 回答データの中には一見すると外れ値のようなデータも含まれていた為、平均値ではなく中央値を採用。

11-4 参加者の顔ぶれの変化

回答数: 101件

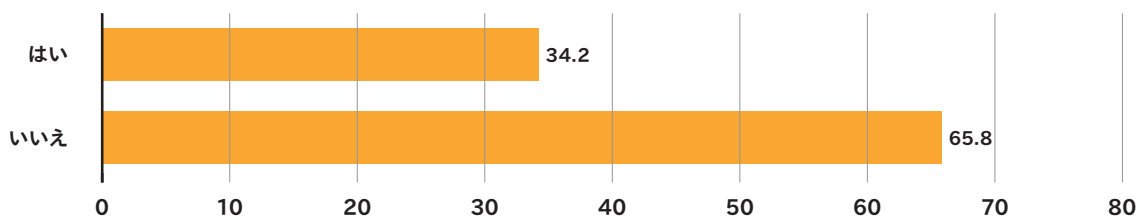
- 多子世帯の方が来られるようになりました。(静岡県)
- 地域外のひとり親世帯者が参加するようになった。(沖縄県)
- 多子世帯の参加がある。母親だけではなく、父親も参加したりと父親の参加率が高い。ひとり親世帯の友人同士の参加もあったり、交流の場になっている。(茨城県)
- こども食堂では外国人の家族が増えた。フードパントリーでは遠くからの参加が増えた。一人暮らしの老人が増えた。(東京都)
- 離れた地区からの利用が増えた。(千葉県)
- 以前からの参加者の知り合いが増えた。(青森県)
- 外国籍の世帯が増え、父子世帯なども参加するようになった。こども食堂が、周知されて来た成果でもあると思う。(愛知県)
- 両親そろって子連れでという家族が食堂来場者に多くなったように感じる。(愛知県)
- 認知が広がり、地域の子ども達が集まり始めた。(和歌山県)
- 地域包括支援センターや知人からの紹介という一人暮らしの高齢者が増えた。(愛知県)

アンケートからわかること

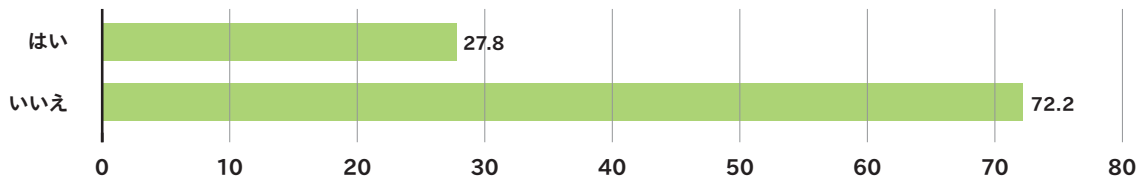
- ・ 物価上昇による変化として、77.3%が費用の負担が増えたと回答し、前回の79.0%とほぼ同水準の結果となった。次いで多かったのが、参加者が増えたという回答で36.3%だった。
- ・ 費用の負担については、1回開催あたりの増額影響は中央値4,000円増(前回値3,000円増)という結果であった。参加者も中央値で50.0人増(前回値27.9人増)、参加者の顔ぶれの変化もみられ、運営者の負担が増えている。

12-1 物価上昇に対する行政からの緊急支援策があったか

回答数：742件 単位：%

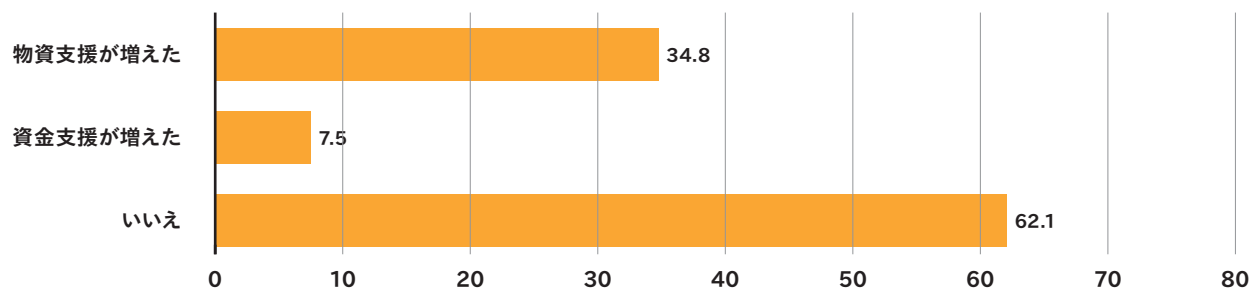


■ (参考) 第7回アンケート 2022年11月時点 回答数：681件

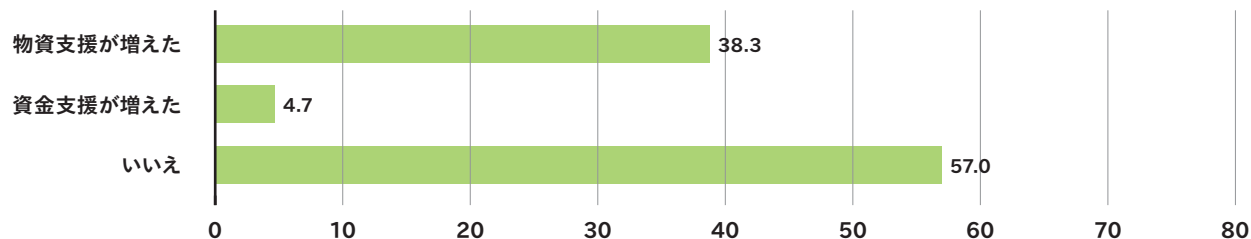


12-2 物価上昇に対する民間からの緊急支援策があったか

回答数：742件 単位：%



■ (参考) 第7回アンケート 2022年11月時点 回答数：681件



アンケートからわかること

- ・ 物価上昇による行政からの緊急支援策ありが34.2%と前回の27.8%から増加、民間からの緊急支援策に関して物資支援が増えたが34.8%と前回の38.3%から減少する一方で、資金支援が増えたが7.5%と前回の4.7%から増加する結果となった。

13 物価上昇による困りごとエピソード

- 調味料の高騰が激しく揚げ物など減らさないといけないかな？とか卵も高いので卵料理はさけようかな？と考えるようになった。また品数多く作るのではなくカレーの頻度が増えた。(愛媛県)
- なるべく分からないように使用のお肉などを減らして調整しています。(熊本県)
- 物価が高騰しても必要なものはいるので、やり繰りや自己負担で、どうにか運営している。(兵庫県)
- 紙皿をやめ、スタッフの家からの食器を使用している。(茨城県)
- 野菜は畑で作ってみようと今始めました。実がつくのが楽しみです。(沖縄県)
- 電気代に一番困っています。寒い時はエアコン、暑い時もエアコン。何部屋も使っているのでかなりの金額になります。(徳島県)
- 混ぜご飯のように人数に関係なく作れるものが増えた。(福島県)
- 卵の価格が高騰して品薄になったので「おやつのかん」で提供している手作りの焼き菓子を卵なしのカップケーキなどに変更した。(京都府)
- 私共離島の子ども食堂を運営するには物資の支援をしてくれる所が無い。(鹿児島県)
- 地域の方からいただく食材を最大限活用し、購入する食材を減らして支出を抑えている。デザートは質と量を調整している。(香川県)
- 食材などもらいいいくガソリン代が増えた。(愛知県)
- 弁当のおかずを減らした。今後弁当容器を小さくする予定。(愛媛県)
- 卵料理を減らしている。以前はマカロニサラダ、ポテトサラダにゆで玉子を入れていたが、今は入っていない。仕入れに行くと、値段が高いので買うのをやめることがしばしばある。(徳島県)
- 卵の値段が上がっているが、卵の調理が好きな人が多いので、困っている。(滋賀県)
- お肉が買えないので、豆腐や他のもので、栄養と食感を工夫している。(福岡県)
- 価格が変わっていないと思ったら量が減っていた。(香川県)

第 3 部

.....

活動に関する困りごと (自由筆記)

14 困りごとの具体例（自由筆記）

その1 感染対策

- 5類になったことでの具体的な感染予防対策の変更。どこまで感染対策を続けていくか。（愛知県）
- コロナが消えたわけではないので、高齢者の調理担当がたくさんいて懸念がある。（群馬県）
- コロナが必ずしも終息したわけではないので、衛生管理ができるか不安です。気をつけすぎる事は無いですが、萎縮しては楽しめない。または家で食中毒を起こした事がないという根拠のない自信が邪魔する事もあります。いつも迷いながらやっています。（埼玉県）

その2 学校、行政、地域組織との連携等

- 一部の方々には、子ども食堂は貧困対策として捉えている住民が、吹聴しておりますので、中々難しく理解してもらうことが難しい。毎月町内会への広報活動をこころがけています。（岩手県）
- 活動を続けて行く上で自治会などつながりたいけど、どの様に巻き込んだら良いのかわからない。（熊本県）
- 行政とのかかわりあいも少しずつできてきました。有難いです。ただ、本当に大変な地域に、居場所・会場がないということです。（埼玉県）
- 困っている人に届けたいという思いは持っていますが、それを表に出せないため。ただ、まだ昨年度から始めたころなので、地道に続けていくしかないのかなという思いは持っています。（滋賀県）
- 参加者とつながり、課題もさまざまな中で、どのように寄り添っていけばよいのか迷うことがある。（愛知県）
- 参加者と話してみて、生活の困窮ぶりを知ることもあり、開催日以外にそっと品を渡したりすることはできるが、同様の状況の人がいても、じっくり話さないと気づかないので支援が行き届かない。（埼玉県）
- 支援が必要であるが、支援を求める手をあげることができていない食料脆弱世帯が、まだまだあるのではないかなと思う。そのような世帯の状況を掴んでいる機関があるのであれば、こども食堂の情報や当方のコミュニティパントリーの情報を伝えて欲しいと思う。現在、民生児童委員の定例会での呼びかけを準備中であるが、他に機能する機関や情報提供のルートがないか、行政の意見を聴いていきたい。（愛媛県）
- 地方はみんなが子ども食堂に行く雰囲気にならないと、困っている子どもは来られないジレンマあり。（群馬県）
- 弁当配布で弁当予約者に渡す弁当代が毎月値上がりしており、子どもへの無料提供は継続しながら大人の負担金を増額するしか手立てがない。行政がもっと地区センターの使用に前向きに検討して、早期に使用許可を認めてもらいたい。（富山県）

14 困りごとの具体例（自由筆記）

その3 ボランティア、スタッフの確保など

- スタッフが徐々に高齢化し、新しい担い手が不足、疲弊してきている。（埼玉県）
- スタッフ不足。子供たちと遊んでくれる高校生や大学生スタッフがいてくれたら助かります。（熊本県）
- だんだん希望者が増え、定員を上回り、食事を作る、子どもを見守るボランティアが少ないことが悩みです。（島根県）
- 個別支援はどこまでこちらからアプローチすべきか、悩むところ。スタッフについては、調理には手が足りているものの、子どもの遊び相手・見守りなどが充分にできるほどではない。（東京都）
- 事業所として取り組んでいるこども食堂の活動ですが、業務ではないため運営スタッフとして動いているスタッフはごく少数で、業務とこども食堂の活動の両方をこなしていくことがとても大変です。こども食堂や学習会、フードパントリーなど当日はボランティアスタッフに手伝ってもらえますが、問い合わせ対応や予約の受付、その他事務的な作業は業務の合間や時間外に行っているため、活動の規模が拡大するにつれ関わっている一部スタッフの負担が大きくなっています。（青森県）
- 利用者が最大300人の数をこなすことが出来ないで利用者をこちらから選別（一部優先するが抽選という方法）が果たして正解なのか？（熊本県）

その4 会場の不足

- マンション集会所を借りて活動していますが、キッチンがない、火が使えないなどの制約があり、より適した場所を探しています。（兵庫県）
- 公民館で開催しているが、広い部屋は恒常的に他の利用者が確保しており、使うことができないため、玄関ホールに机、いすを並べて開催している。（愛知県）
- 今まで使用していた会場が、賃借料値上げにより、使用できる同等の規模の会場を地域内で探すのが難しい。（新潟県）
- 参加者が増えてきたため、会場のキャパが不足。調理も一緒に行うため、手ごろなキッチンが併設した会場が少ない。（青森県）

その5 資金等の不足

- あくまでボランティア活動であり、営利を目的としておらず、人と人との善意の関わり、相互の助け合いがベースとなるが、運営資金・人材・ネットワーク等は必須である。(愛媛県)
- お弁当代が捻出できない。固定費、駐車場、電気水道代などが 厳しい。(北海道)
- ボランティアスタッフの謝金や学生ボランティアの交通費の資金が不足しています。(広島県)
- 季節によって集まる食材が極端に少ない場合、持ち出し資金が膨らみます。何とかやりくりしていますが、思い描いていることも食堂活動に近づけるためには更なる努力が必要です。(鳥取県)
- 公式LINEが6月より有料化され、月5000円という出費はかなり運営費を圧迫します。利用者との連絡には公式LINEが必要不可欠で、物価高騰の中、食材費以外の、この通信費が今1番の悩みです。(福岡県)
- 参加希望者の増加と物価高騰で、食材費が不足しがち。(愛知県)
- 使い捨て容器やアルミホイル、サランラップなどの消耗品の購入が以外にもかかっている。(茨城県)
- 使用施設の老朽化、公的施設を無料で借りているため費用の掛かることを言えない。
例：網戸をつけてほしい。戸がきしんで動かない。スロープがない。等(福井県)
- 資金の不足は生鮮食品の購入。学生ボランティアの交通費1,000円(大人は無償です)。(愛知県)
- 資金不足⇒食材を運ぶ運搬車両を持っていないため、個人の車両やボランティアスタッフの車両を借りることになる。⇒食材の保管庫がないため個人の住宅を借りて置いている。⇒大型冷蔵庫冷凍庫を所有していない。また、所有したとしても年間の電気代が高額なため維持できない。(京都府)
- 食材のみに留まらず、付随する消耗品や燃料費など。(宮崎県)
- 食材の調達及び学習支援に外国由来のこどもたちが複数参加するようになり、教育学部の学生に学習面を担当してもらっているが、彼らの交通費が不足気味。(長野県)
- 食材提供はフードバンクさん、その他より頂くことができ、たいへん助かっています。しかし、そこで調達できないお肉、野菜など生鮮食品が購入の必要がありそこにお金がかかります。旬の果物など高価で買うことが出来ない現実です。もっと自由なお金を使うことが出来れば助かるかと思います。(佐賀県)
- 食費周りは助成金をいただいて何とかなってきているが、消耗品費や大きな備品購入が毎回どうしたものかと思う。パントリー活動や学習支援など新しい取り組みにあたって、基本にお金がかからないので色々動き回って食品や機材をいただけているがこれが続くわけでないで、困っている。購入するとなると学習支援の末端のお金や参考書のお金、食品購入のお金と難しいのが現状です。(栃木県)
- 長期休みの時の食料支援を継続したいと思うが資金について不安がある。(岩手県)



こども食堂の現状 & 困りごとアンケート

vol. 8

結果報告

本アンケートは、ご寄付により実施をしております。

ご支援に感謝申し上げます。

むすびえでは、本アンケート結果を元に、
こども食堂支援企画を立ち上げて参ります。

引き続き、こども食堂へのご理解、
ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。
